

## 第16回 秋田県特別支援学校総合体育大会

# 「ネオホッケー競技」実施要項

- 1 日 時 平成29年9月22日(金) 11:30～15:00
- 2 会 場 雄和体育館
- 3 監督会議 11:15 (体育館内本部テーブル付近)
- 4 競技方法 トーナメント方式(※3位決定戦を行うが参加校により変更あり)  
前年度優勝校・準優勝校はシードとし、違うブロックに入ることとする。シードが組めない場合も優勝校と準優勝校を別ブロックとする。
- 5 競技規則 日本フロアボール連盟「ネオホッケー競技ルール」及び秋田県特別支援学校総合体育大会申し送り事項による。
- (1) チーム編成
- ① 試合は6人対6人で行う。
  - ② 競技は、小・中学部(小学校・中学校)合同の部「小・中」、高等部の部「高」の2区分で行い、ともに男女混合の編成も可。
  - ③ 高等部生に代えて中学部生徒、中学部生徒に代えて小学部児童が参加できるものとする。
  - ④ エントリーは、原則1区分1チームとする。
  - ⑤ ゲーム開始時には、コートに6名のプレイヤーがいなくてはならない。また、ゲーム中には、4名以上のプレイヤーがいなくてはいけない。
- (2) 競技時間
- ① 小・中学部合同は、前後半5分、ハーフタイム2分で競技を行う。
  - ② 高等部は、前後半7分、ハーフタイム2分で競技を行う。
  - ③ 同点の場合、2分間の延長戦を行う。それでも勝敗がつかない場合は、ペナルティストローク戦で決定する。(ペナルティポイントから、各チーム3人ずつ行い勝敗を決める。同点の場合は、サドンデス方式で早く一本入ったチームを勝ちとする。)
- (3) 用具
- スティック、ボールについては、事務局で準備した物を使用する。  
(協会検定品:スティックはプラスチック製で赤、黄の2色、ボールは白色)
- (4) ゲームの方法
- ① 代表選手によるフェイスオフを行い、競技を開始する。代表選手以外は、ボールより3m以上離れる。フェイスオフを行った選手は、他の選手がボールに触れるまでは、再びボールに触れてはならない。
  - ② ゴール後、後半開始時もフェイスオフを行う。
  - ③ 前後半でチェンジコートを行う。
  - ④ 自由な交代とし、交代して退いた競技者も交代要員として再度出場できる。その際、交代選手は審判員の了承を得てからコート内に入る。
  - ⑤ ゴールエリア内に入ることはできない。(対処:ステップ・イン・ディフェンス及びステップ・イン・オフense)
- (5) ゴールの判定
- ボールが、ゴールポスト間を完全に横切ったときに得点とされる。
- (6) 競技の中断と開始
- ① ボールがコート(フェンス)から出たときは、その地点からコート内3m以内の地点で相手側のフリーストロークを行う。
  - ② ボールが、3秒以上膠着状態になったら、その地点でフェイスオフを行う。
  - ③ シューティングライン内での反則でフリーストロークが与えられる場合、次の方法でゲームを開始する。  
(攻撃側の反則) 防御側は、反則地点から3m以内でフリーストロークを行う。  
(防御側の反則) 攻撃側は、シューティングラインの外からフリーストロークを行う。
  - ④ ゴールラインより後方で反則は、次の方法でゲームを開始する。  
(攻撃側の反則) 防御側は、自陣のゴールライン上からフリーストロークを行う。  
(防御側の反則) 攻撃側は、敵陣のコーナーポイント上からフリーストロークを行う。

- ⑤ ペナルティストロークのときはタイマーを止める。尚、ペナルティストロークでゴールが決まる前に攻撃側がセンターラインを超えて入った場合はたとえ、ゴールになっても無効とし、守備側のフリーストロークとする。守備側がセンターラインを超えて入った場合は、ゴールは有効になる。

(7) 主なファウルとその対処

ファウル名	解説	対処	
		FS	PS
キッキング・ザ・ボール	ボールを踏む、蹴る。	○	
ハイ・スティック	スティックのブレード部分を、膝より高くひり上げる。	○	
スライディング・ストローク	手や肘をついたり、寝そべってプレーする。	○	
スローイング・ザ・スティック	スティックを投げる、落とす。	○	
ハッキング・ザ・ボール	空中のボールをはたく、掴む、パスする。	○	
ダブル・ストローク	フェイスオフ、FS、PSをした選手が、続けて二度ボールにふれる。	○	
クラッシング	スティックで相手選手のスティックを打つ、押さえる、持ち上げる。	○	
ステップ・イン・オフェンス	相手チームのゴールエリア内に入る。	○	
ステップ・イン・ディフェンス	味方チームのゴールエリア内に入る。		○
チャージング	相手選手に対して、押す、つかむ。	○	○
スティック・イン・ゴール	スティックをゴール内に入れる。	○	○
プッシング・ザ・ゴール	ゴールポストを動かす、握る。	○	○
オーバー・ザ・エリア	ゴールエリアを飛びこえる、跨ぐ。	○	○
ファウル・スティック	スティック全体が膝より下の位置でプレーする。	○	
オーバー・ザ・ライン	ペナルティストローク時、ボールがゴールラインを通過する前に、選手が前方に移動する。	○	○

※チャージングの程度に応じて、選手に対して警告や退場もあり得る。  
 ※「FS」：フリーストローク 「PS」：ペナルティストローク

※ チャージングの程度によっては、選手に対して「注意」をする。同じ選手が1試合中に2回、チャージングのファウルをした際は「退場」とすることもあり得る。

※退場したプレーヤーに代わるプレーヤーは、サイドが変わるまでは競技に参加できない。

(8) その他

- ①ユニフォーム(ナンバリング・ゼッケン等)は、各チームで用意すること。
- ②スティックは片手で持つことを可能とする。ただし、各校において、選手の実態に応じて両手で持つことを指導するなど安全に十分配慮すること。
- ③**審判の人数が足りないため、各校から1名、審判(副審)を帯同する。**

5 会場図

